



2026年3月期 第1四半期決算 プレゼンテーション資料

2025年7月31日
大阪ガス株式会社

証券コード 9532

目次

I . 26.3期第1四半期決算と26.3期見通しの概要	2 - 7
II . 数値増減	
1. 26.3期第1四半期決算の対前年比較	8 - 13
2. 26.3期見通しの対前年比較	14 - 19
III . 補足情報	20 - 24

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています：下記のURLで、決算短信、統合報告書、ファクトブック、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。
<https://www.daigasgroup.com/ir/>

「見通し」に関する注意事項：このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略等が含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

26.3見通しは、2025年5月8日公表の自己株式の取得による影響を考慮しています。(ただし、「DOE」、「配当性向」、「一株当たり当期純利益」及び「一株当たり純資産」には、2025年7月1日以降の取得分の影響は含んでいません。)

国内ガス販売量に関する注記：全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。名張近鉄ガス・新宮ガスは12月決算です。

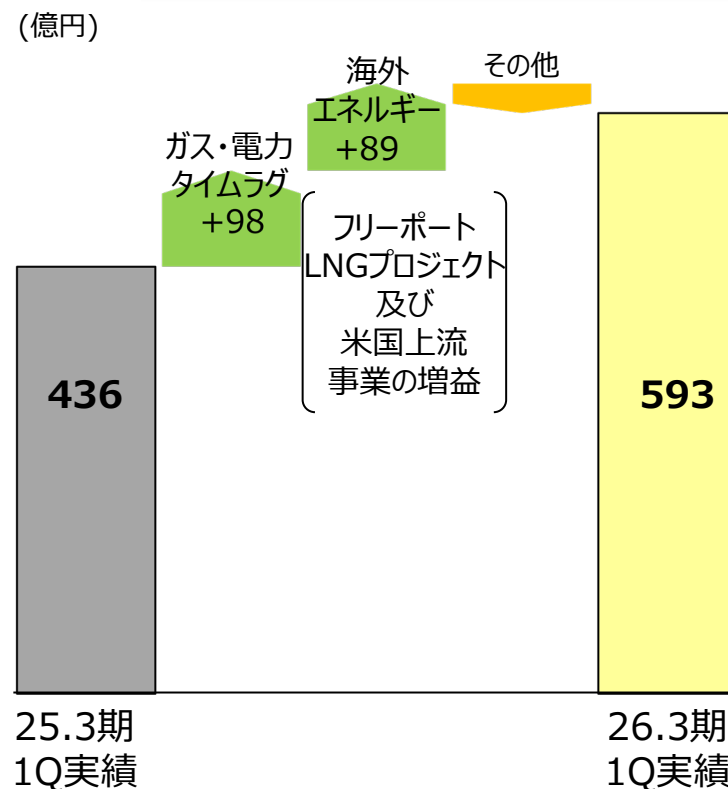
I . 26.3期第1四半期決算と26.3期見通しの概要

26.3期第1四半期決算のポイント

- ✓ 売上高は、前年並み。
- ✓ 経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は、国内エネルギー事業でタイムラグ差益が増加したことなどにより増益となった。

(億円)	26.3期 1Q実績	25.3期 1Q実績	前年差
売上高	4,709	4,709	+0
経常利益	593	436	+156
親会社株主に帰属する 当期純利益	485	307	+177

経常利益 前年差(+156億円)の概要



26.3期第1四半期決算の対前年比較(経常利益)

(主な増減要素を記載)

**経常利益
前年差
+156億円**
436→593

- 原油価格 ▲12.3\$/bbl (87.4→75.1)
- 為替レート ▲11.3円/\$ (155.9→144.6)

**国内エネルギー
+136億円^{*1}**
129→266

タイムラグ +98(42→140)
ガス+76(31→107) 電力+21(10→32)
ガス事業粗利^{*3} +61(513→574)
+ JLCと比較した当社長期契約LNGの競争力向上
+ ガス販売量の増加
電力^{*3} ▲22(87→64)
- 費用の増加
- 市況影響(石炭価格等)による販売価格低下
その他 ▲1(-512→-513)

**海外エネルギー
+89億円^{*1,2}**
175→265

米国エリア +112(153→265)
+ フリーポートLNGプロジェクトの増益
+ 上流事業の増益
豪州エリア ▲10(27→16)
- 上流事業の減益
その他 ▲12(-4→-17)
- インド都市ガス事業への出資影響^{*4}

**ライフ&ビジネス
ソリューション
▲5億円^{*1}**
51→45

都市開発事業 +12(20→32)
情報事業 ▲2(6→4)
材料事業 ▲15(23→8)
その他 ▲1(1→0)

その他 ▲63億円
79→16

セグメント調整額 ▲10(23→12)
営業外損益^{*5} ▲52(55→3)

- *1 セグメント利益影響
- *2 デリバティブ時価評価影響 ▲10(7→-3)を含む
- *3 タイムラグ差損益を除く
- *4 インド都市ガス事業にマイナー出資を行った日系コンソーシアムの連結化に伴うもの(損益取り込みは25.3期2Qより開始)
- *5 持分法投資損益を除く

今回より、LBSセグメントの内訳を「事業グループ別」表記に変更。変更の詳細はp.23に記載。

26.3期 見通しの対前年比較のポイント

- ✓ 26.3期見通しは、5月公表の業績予想から変更なし。
- ✓ 売上高は、原料費調整制度に基づくガス販売単価の低下等により、25.3期に比べて減収となる見通し。
- ✓ 経常利益は、前年度の電力市場取引による利益の反動や米国再エネ事業における利益計上先の変更等により、25.3期に比べて減益となる見通し。
- ✓ 親会社株主に帰属する当期純利益は、前年度の電力市場取引による利益の反動等により、25.3期に比べて減益となる見通し。

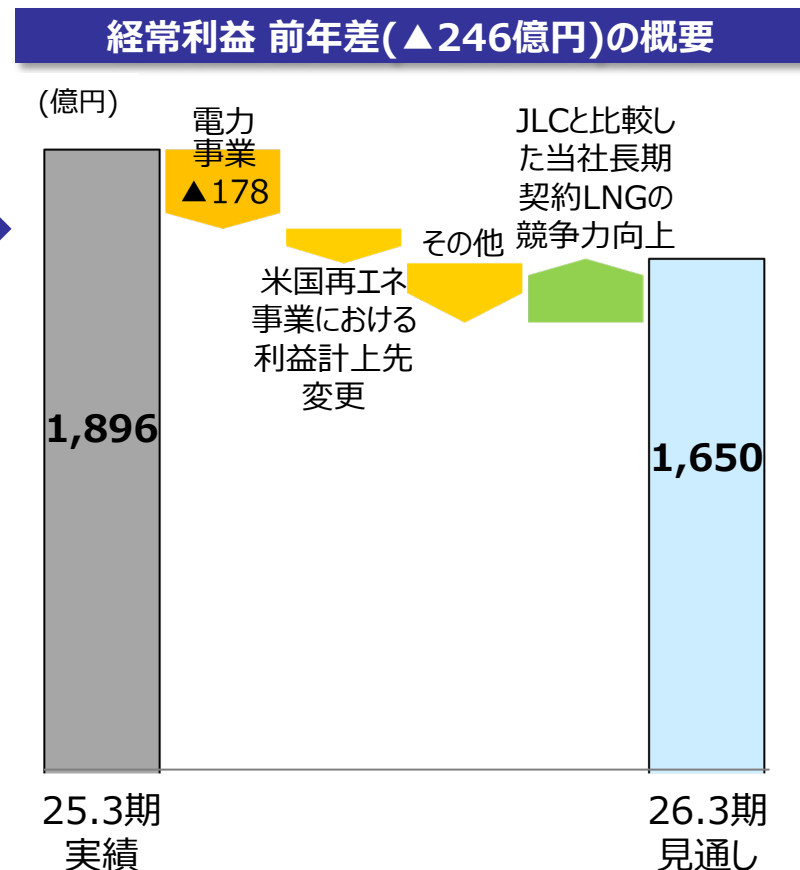
(億円)	26.3期 見通し	25.3期 実績	前年差
売上高	20,400	20,690	▲290
経常利益	1,650	1,896	▲246
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,270	1,344	▲74
ROIC ^{*1}	5.1%	5.4%	▲0.3%
ROE	7.6%	8.2%	▲0.7%
自己資本比率 ^{*2}	53.9%	55.5%	▲1.6%
D/E比率(倍) ^{*2}	0.56	0.50	+0.06
配当額(円/株)	105.0	95.0	+10.0

*1 ROIC = NOPAT ÷ 投下資本(期首期末平均)

NOPAT = 経常利益 + 支払利息 - 受取利息 - 法人税等

投下資本 = 自己資本 + 有利子負債残高(当社にリスクのないリース負債除く)

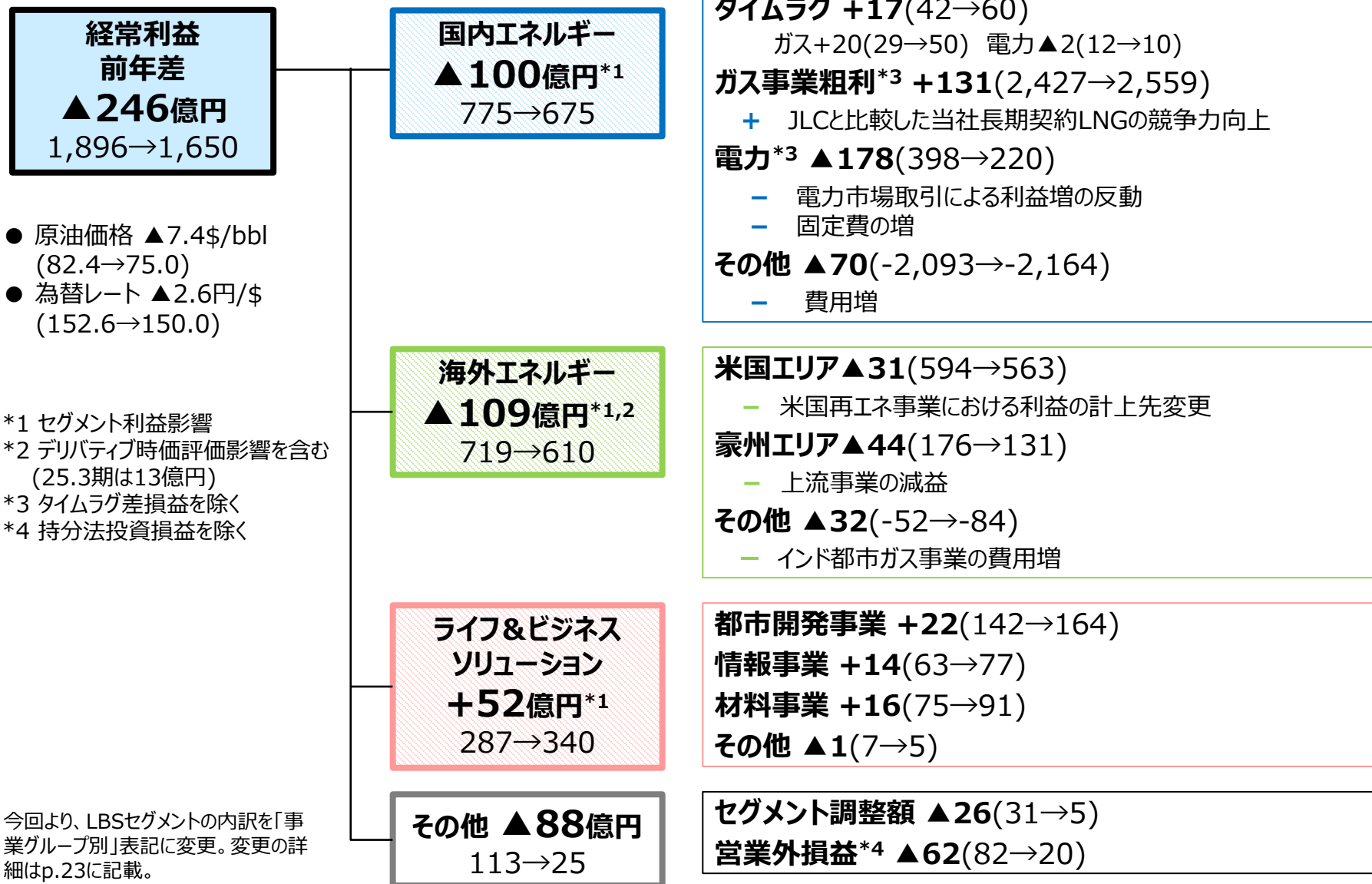
*2 発行済ハイブリッド社債の資本性50%を調整



26.3期 見通しの対前年実績比較(経常利益)

※ 26.3期見通しは、5月公表の業績予想から変更なし。

(主な増減要素を記載)

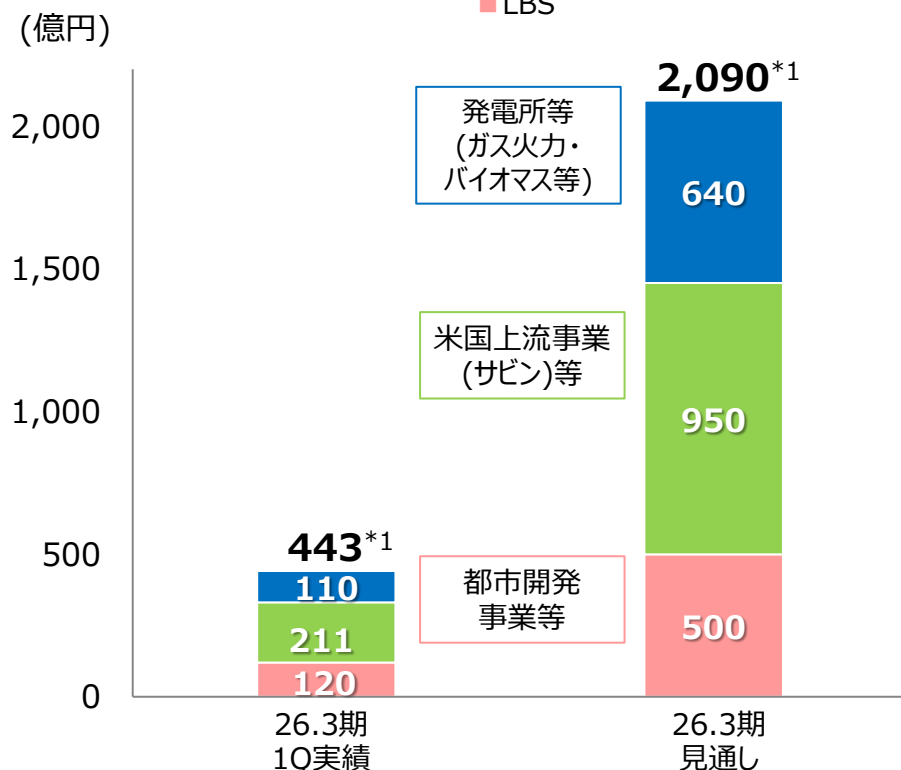


成長投資の実績と見通し

- ✓ 26.3期第1四半期の成長投資額の実績は、443億円となった。
- ✓ 財務健全性指標は中期経営計画2026で示した「自己資本比率45%以上、D/E比率0.8以下」を確保している。

成長投資

- 国内エネルギー
- 海外エネルギー
- LBS



*1 成長投資額には設備投資案件以外に出資・融資案件を含むため、設備投資額とは異なる

財務健全性指標

	25.3期 期末実績	26.3期 1Q末実績	26.3期 期末見通し
自己資本 比率 ^{*2}	55.5% (52.8%)	54.0% (51.2%)	53.9% (51.2%)
D/E比率 ^{*2}	0.50 (0.58)	0.57 (0.65)	0.56 (0.64)

*2 発行済ハイブリッド社債 1,750億円の資本性50%を調整。
括弧内の数値は調整前。

Ⅱ．数値増減

Ⅱ-1. 26.3期第1四半期決算の対前年比較

26.3期第1四半期決算の対前年比較 - ①売上高、利益等

億円	A. 26.3期 1Q実績	B. 25.3期 1Q実績	A-B	(A-B)/B	備考
売上高	4,709	4,709	+0	+0.0%	
営業利益	476	287	+189	+65.8%	タイムラグ差損益 等
経常利益	593	436	+156	+35.9%	タイムラグ差損益 等
タイムラグ差損益 ^{*1}	140	42	+98	+234.5%	
(個別)ガス事業	107	31	+76	+246.6%	
(個別)電力事業	32	10	+21	+200.2%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	485	307	+177	+57.6%	タイムラグ差損益 等
一株あたり当期純利益(円)	122.6	75.5	+47.1	+62.4%	
EBITDA ^{*2}	912	683	+229	+33.5%	タイムラグ差損益 等
NOPAT ^{*3}	422	325	+97	+30.0%	タイムラグ差損益 等

*1 国内エネルギーの内数

*2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 (のれん償却費含む) + 持分法投資損益

*3 NOPAT = 経常利益 + 支払利息 - 受取利息 - 法人税等

	A. 26.3期 1Q実績	B. 25.3期 1Q実績	A-B	備考
原油価格(\$/bbl)	75.1	87.4	-12.3	26.3期実績は6月速報値までの平均
為替(円/\$)	144.6	155.9	-11.3	

26.3期第1四半期決算の対前年比較 - ②資産等

億円	A. 26.3期 1Q末実績	B. 25.3期 期末実績	A-B	備考
総資産	31,857	32,005	-147	
自己資本	16,313	16,887	-574	
一株当たり純資産(円)	4,141.8	4,254.1	-112.4	
株主資本	13,206	13,020	+185	
有利子負債	10,606	9,724	+881	
ハイブリッド社債	1,750	1,750	±0	
自己資本比率	51.2%	52.8%	-1.6%	
ハイブリッド社債考慮後 ^{*1}	54.0%	55.5%	-1.5%	
D/E比率	0.65	0.58	+0.07	
ハイブリッド社債考慮後 ^{*1}	0.57	0.50	+0.07	

	A. 26.3期 1Q実績	B. 25.3期 1Q実績	A-B	備考
ROIC ^{*2}	1.6%	1.2%	+0.3%	タイムラグ差損益 等
ROE	2.9%	1.9%	+1.0%	タイムラグ差損益 等

*1 発行済ハイブリッド社債の資本性50%を調整

*2 ROIC = NOPAT ÷ 投下資本 (期首期末平均)

NOPAT = 経常利益 + 支払利息 - 受取利息 - 法人税等

投下資本 = 自己資本 + 有利子負債残高 (当社にリスクのないリース負債除く)

26.3期第1四半期決算の対前年比較 - ③投資、キャッシュ・フロー等

億円	A. 26.3期 1Q実績	B. 25.3期 1Q実績	A-B	備考
投資額(A+B)	555	956	-401	
品質向上投資(A)	111	133	-21	
成長投資(B)	443	823	-380	
国内エネルギー	110	78	+32	
海外エネルギー	211	573	-361	
ライフ&ビジネス ソリューション	120	171	-51	
設備投資額(投資額の内数) ^{*1}	495	535	-40	
減価償却費(のれん償却費含む)	323	303	+20	

*1 設備投資額(投資額の内数) = 投資額 - 出資額(M&A、既存関係会社への追加出資等)

億円	A. 26.3期 1Q実績	B. 25.3期 1Q実績	A-B	備考
フリーキャッシュフロー ^{*2}	215	-732	+948	

*2 フリーキャッシュフロー = 営業活動によるキャッシュ・フロー - 投資活動によるキャッシュ・フロー

26.3期第1四半期決算の対前年比較 - ④件数、販売量等

	A. 26.3期 1Q末実績	B. 25.3期 1Q末実績	A-B	(A-B)/B	備考
お客さまアカウント数(千件)	10,759	10,426	+333	+3.2%	
ガス ^{*1}	5,456	5,350	+106	+2.0%	
電力 ^{*2}	2,475	2,297	+179	+7.8%	
その他	2,827	2,779	+49	+1.7%	

*1 ガス供給件数と持分法適用会社の供給件数の合計（ワンタッチ卸先の供給件数を除く）

*2 低圧電気供給件数および持分法適用会社の供給件数などの合計

	A. 26.3期 1Q実績	B. 25.3期 1Q実績	A-B	(A-B)/B	備考
国内ガス販売量(百万m ³) ^{*3,4}	1,524	1,463	+61	+4.2%	
家庭用	366	344	+22	+6.4%	
業務用等	1,158	1,119	+39	+3.5%	
ガス供給件数(千件)	5,124	5,084	+41	+0.8%	
国内電力販売量(百万kWh) ^{*4}	3,473	3,131	+342	+10.9%	
小売	1,457	1,343	+114	+8.5%	
卸等	2,016	1,788	+228	+12.7%	新規卸先の増加 等
低圧電気供給件数(千件)	1,935	1,848	+87	+4.7%	

	A. 26.3期 1Q実績	B. 25.3期 1Q実績	A-B	備考
平均気温(℃)	20.5	20.4	+0.1	

*3 45MJ/m³

*4 ガス販売量及び電力販売量は、販売に係る収益を「収益認識に関する会計基準の適用指針」に基づき見積り計上していることから、決算月に実施した検針の日から決算日までに生じた使用量の見積りを反映させたものを記載しております

26.3期第1四半期決算の対前年比較 - ⑤セグメント別

億円	A. 26.3期 1Q実績	B. 25.3期 1Q実績	A-B	(A-B)/B	備考
売上高	4,709	4,709	+0	+0.0%	
国内エネルギー	3,821	3,957	-135	-3.4%	LNG販売量の減少 等
海外エネルギー	341	255	+85	+33.6%	
ライフ&ビジネス ソリューション	672	630	+42	+6.7%	
調整	-125	-133	+7	-	
経常利益	593	436	+156	+35.9%	
セグメント利益 ^{*1}	589	380	+208	+54.9%	
国内エネルギー	266	129	+136	+104.8%	タイムラグ差損益 等
内、電力	97	98	-0	-0.5%	
海外エネルギー	265	175	+89	+50.9%	フリーポートLNGプロジェクトの増益 等
ライフ&ビジネス ソリューション	45	51	-5	-11.5%	材料事業の減益 等
調整	12	23	-10	-45.6%	
営業外(持分法投資損益を除く)	3	55	-52	-93.5%	
タイムラグ差損益 ^{*2}	140	42	+98	+234.5%	
(個別)ガス事業	107	31	+76	+246.6%	
(個別)電力事業	32	10	+21	+200.2%	
ヘッジ会計適用外の デリバティブ時価評価影響 ^{*3}	-3	7	-10	-	

*1 セグメント利益 = 営業利益 + 持分法投資損益

*2 国内エネルギーの内数

*3 海外エネルギーの内数

Ⅱ. 数値増減

Ⅱ-2. 26.3期見通しの対前年比較

※ 26.3期見通しは、2025年5月8日公表時点から変更はありません。

26.3期見通しの対前年比較- ①売上高・利益等

億円	A. 26.3期 5/8見通し	B. 25.3期 実績	A-B	(A-B)/B	備考
売上高	20,400	20,690	-290	-1.4%	原料費調整制度に基づくガス販売単価の下落 等
営業利益	1,390	1,607	-217	-13.5%	前年の電力市場取引による増益の反動 等
経常利益	1,650	1,896	-246	-13.0%	前年の電力市場取引による増益の反動 等
タイムラグ差損益 ^{*1}	60	42	+17	+40.2%	
(個別)ガス事業	50	29	+20	+66.7%	
(個別)電力事業	10	12	-2	-21.8%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,270	1,344	-74	-5.5%	前年の電力市場取引による増益の反動 等
一株当たり当期純利益(円) ^{*2}	321.9	333.3	-11.4	-3.4%	
EBITDA ^{*3}	3,000	3,089	-89	-2.9%	前年の電力市場取引による増益の反動 等
NOPAT ^{*4}	1,361	1,387	-26	-1.9%	前年の電力市場取引による増益の反動 等

*1 国内エネルギーの内数

*2 26.3期見通しの「一株当たり当期純利益」の計算には、2025年7月以降の自己株式取得分の影響は含んでおりません。

*3 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 (のれん償却費含む) + 持分法投資損益

*4 NOPAT = 経常利益 + 支払利息 - 受取利息 - 法人税等

	A. 26.3期 5/8見通し	B. 25.3期 実績	A-B	備考
原油価格(\$/bbl)	75.0	82.4	-7.4	26.3期前提：75\$/bbl
為替(円/\$)	150.0	152.6	-2.6	26.3期前提：150円/\$

26.3期見通しの対前年比較- ②資産等

億円	A. 26.3期 5/8見通し	B. 25.3期 期末実績	A-B	備考
総資産	32,510	32,005	+505	
自己資本	16,645	16,887	-242	円高による為替換算調整勘定の減少 等
一株当たり純資産(円) ^{*1}	4,226.1	4,254.1	-28.0	
株主資本	13,190	13,020	+169	
有利子負債	10,610	9,724	+885	
自己資本比率	51.2%	52.8%	-1.6%	
ハイブリッド社債考慮後 ^{*2}	53.9%	55.5%	-1.6%	
D/E比率	0.64	0.58	+0.06	
ハイブリッド社債考慮後 ^{*2}	0.56	0.50	+0.06	
DOE ^{*3}	3.2%	3.0%	+0.2%	

	A. 26.3期 5/8見通し	B. 25.3期 実績	A-B	備考
ROIC ^{*4}	5.1%	5.4%	-0.3%	前年の電力市場取引による増益の反動 等
国内エネルギー	3.6%	4.2%	-0.6%	
海外エネルギー	7.4%	7.5%	-0.2%	
ライフ&ビジネス ソリューション	5.6%	5.3%	+0.2%	
ROE	7.6%	8.2%	-0.7%	前年の電力市場取引による増益の反動 等

*1 26.3期見通しの「一株当たり純資産」の計算には、2025年7月以降の自己株式取得分の影響は含んでおりません。

*2 発行済ハイブリッド社債の資本性50%を調整

*3 DOE = 一株当たり年間配当金(DPS) ÷ 一株当たり株主資本(期首期末平均)
26.3期見通しの「DOE」の計算には、2025年7月以降の自己株式取得分の影響は含んでおりません。

*4 ROIC = NOPAT ÷ 投下資本(期首期末平均) NOPAT = 経常利益 + 支払利息 - 受取利息 - 法人税等
投下資本 = 自己資本 + 有利子負債残高(当社にリスクのないリース負債除く)

26.3期見通しの対前年比較- ③投資、キャッシュ・フロー等

億円	A. 26.3期 5/8見通し	B. 25.3期 実績	A-B	備考
投資額(A+B)	2,990	2,831	+158	
品質向上投資(A)	900	737	+162	
成長投資(B)	2,090	2,094	-4	
国内エネルギー	640	341	+298	
海外エネルギー	950	1,129	-179	
ライフ&ビジネス ソリューション	500	623	-123	
設備投資額(投資額の内数) ^{*1}	2,710	2,217	+492	
減価償却費(のれん償却費含む)	1,370	1,275	+94	

*1 設備投資額 (投資額の内数) = 投資額 - 出資額(M&A、既存関係会社への追加出資等)

億円	A. 26.3期 5/8見通し	B. 25.3期 実績	A-B	備考
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,930	2,836	+93	
投資活動によるキャッシュ・フロー ^{*2}	2,540	2,556	-16	
フリーキャッシュフロー ^{*3}	390	280	+109	

*2 見通しは投資額を記載

*3 フリーキャッシュフロー = 営業活動によるキャッシュ・フロー - 投資活動によるキャッシュ・フロー

26.3期見通しの対前年比較- ④件数、販売量等

	A. 26.3期 5/8見通し	B. 25.3期 期末実績	A-B	(A-B)/B	備考
お客さまアカウント数(千件)	11,007	10,711	+297	+2.8%	

	A. 26.3期 5/8見通し	B. 25.3期 実績	A-B	(A-B)/B	備考
国内ガス販売量(百万m ³)* ^{1,2}	6,598	6,650	-52	-0.8%	
家庭用	1,669	1,659	+11	+0.7%	
業務用等	4,929	4,992	-63	-1.3%	
国内電力販売量(百万kWh)* ²	16,602	16,982	-380	-2.2%	

	A. 26.3期 5/8見通し	B. 25.3期 実績	A-B	備考
平均気温(℃)	17.6	18.2	-0.6	

*1 45MJ/m³

*2 ガス販売量及び電力販売量は、販売に係る収益を「収益認識に関する会計基準の適用指針」に基づき見積り計上していることから、決算月に実施した検針の日から決算日まで生じた使用量の見積りを反映させたものを記載しております

26.3期見通しの対前年比較- ⑤セグメント別

億円	A. 26.3期 5/8見通し	B. 25.3期 実績	A-B	(A-B)/B	備考
売上高	20,400	20,690	-290	-1.4%	
国内エネルギー	16,500	17,379	-879	-5.1%	原料費調整制度に基づくガス販売単価の下落 等
海外エネルギー	1,300	1,281	+18	+1.4%	
ライフ&ビジネス ソリューション	3,200	2,824	+375	+13.3%	
調整	-600	-795	+195	-	

経常利益	1,650	1,896	-246	-13.0%	
セグメント利益 ^{*1}	1,630	1,813	-183	-10.1%	
国内エネルギー	675	775	-100	-13.0%	前年の電力市場取引による増益の反動 等
内、電力	230	411	-181	-44.1%	前年の電力市場取引による増益の反動 等
海外エネルギー	610	719	-109	-15.2%	
ライフ&ビジネス ソリューション	340	287	+52	+18.2%	都市開発事業の増益 等
調整	5	31	-26	-84.0%	
営業外(持分法投資損益を除く)	20	82	-62	-75.8%	

タイムラグ差損益 ^{*2}	60	42	+17	+40.2%	
(個別)ガス事業	50	29	+20	+66.7%	
(個別)電力事業	10	12	-2	-21.8%	

*1 セグメント利益 = 営業利益 + 持分法投資損益

*2 国内エネルギーの内数

Ⅲ. 補足情報

通期見通しに対する主な収支変動要因

気温・水温影響

変動幅		家庭用ガス販売量への影響
気水温	+1℃	-7%

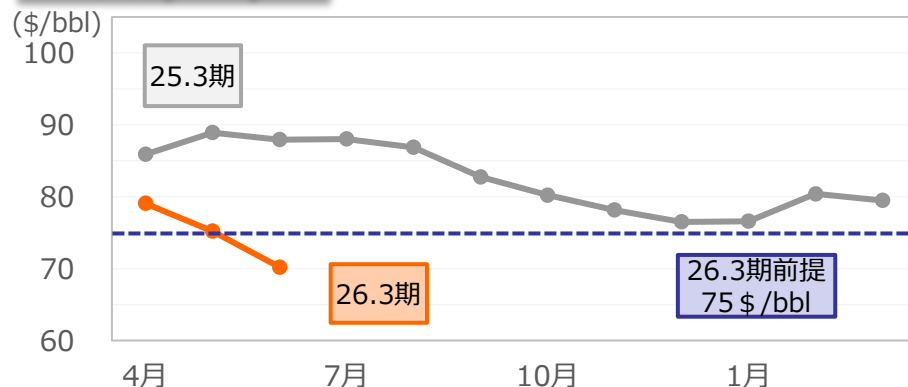
油価・為替影響

- 表は25年7月1日以降の指標が変動した場合の、今年度の収支影響を表示。

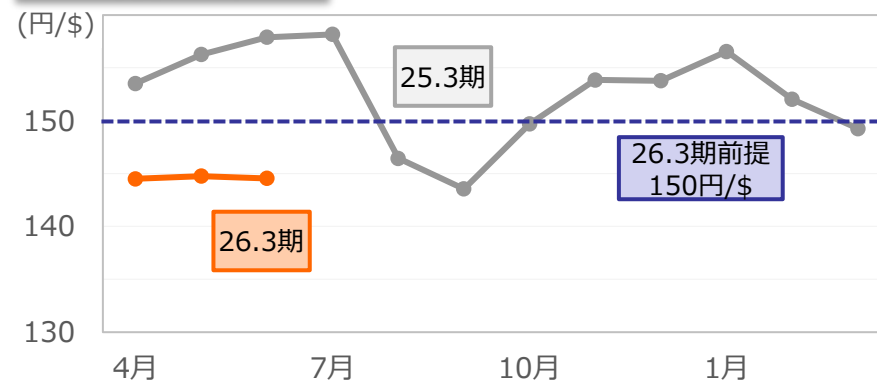
変動幅		セグメント	収支影響	経常利益への影響額
原油価格	+ 1\$/bbl	海外エネルギー	増益	-12.0億円
		国内エネルギー	減益	
為替レート	+ 1円/\$ (円安)	海外エネルギー	増益	-7.3億円
		国内エネルギー	減益	

原油・為替の推移とタイムラグの状況

原油(JCC)



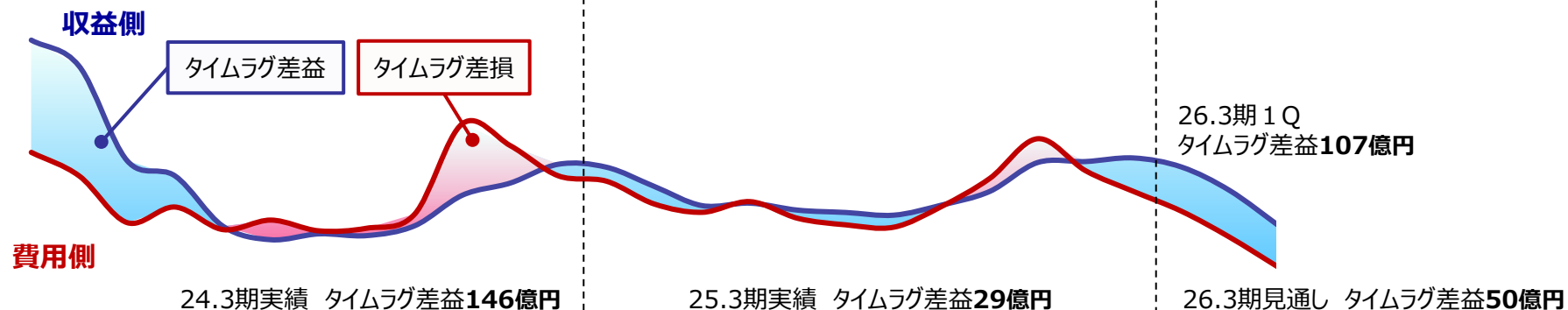
為替レート



タイムラグ差損益(四半期毎の推移)

(億円)	24.3期実績					25.3期実績					26.3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q実績	通期
タイムラグ差損益	323	57	-14	-81	285	42	4	8	-11	42	140	60
ガス	231	11	-17	-79	146	31	14	1	-17	29	107	50
電力	92	46	2	-2	139	10	-10	7	6	12	32	10

【タイムラグ差損益(ガス)のイメージ】

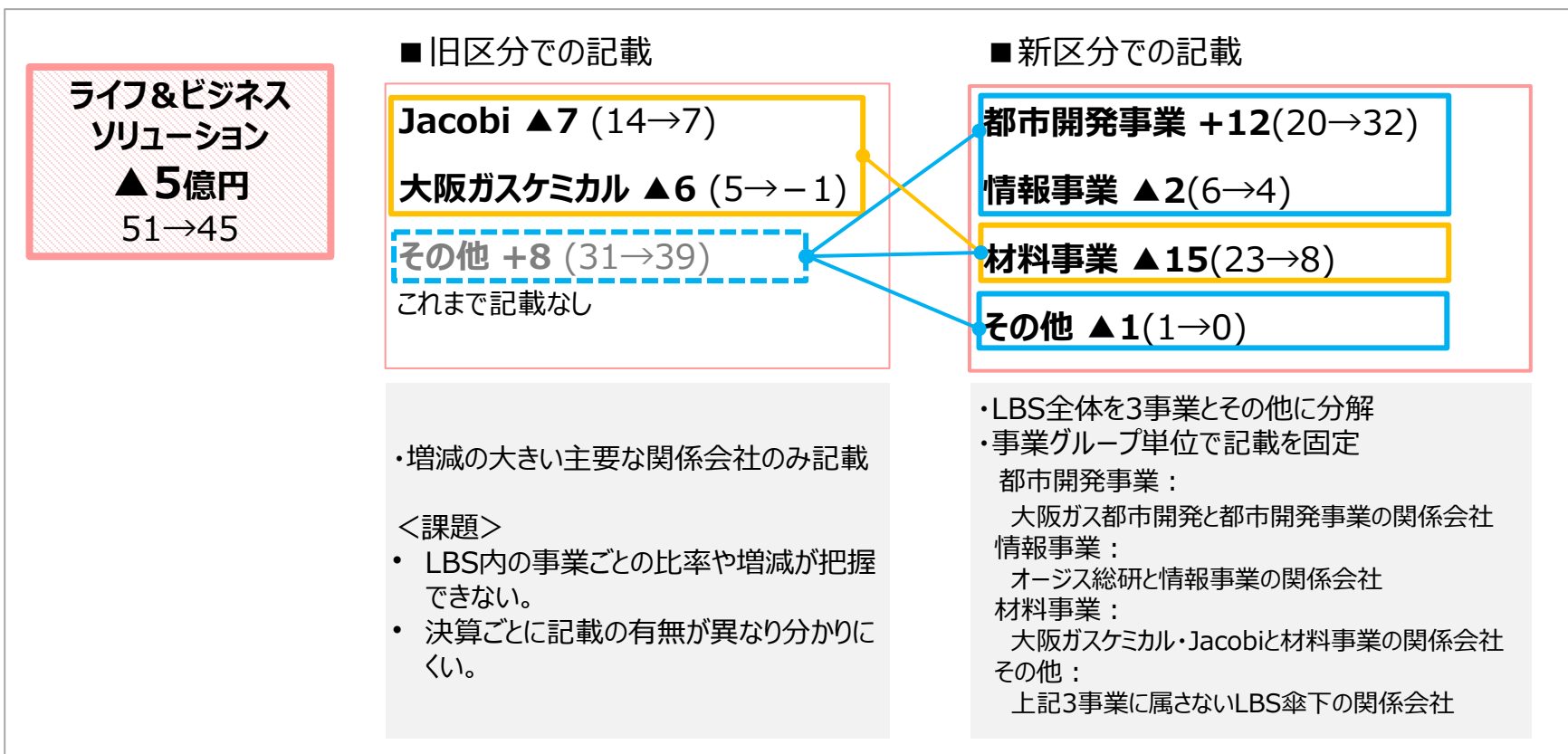


LBSセグメントの区分記載の変更について

✓ 今回より、LBS事業の内訳を「事業グループ別」に変更した。

例：26.3期 1Q決算の対前年比較 変更前後の記載

従来はLBSの内訳として、主な関係会社(大阪ガス都市開発、オーガス総研、大阪ガスケミカル、Jacobi)の個社の実績のみを開示していたが、LBS傘下のすべての関係会社を事業グループごとに集計する形に変更し、事業グループ単位の利益の増減を明確に示せるよう改善した。



IR参考資料

資料(公表年月)	資料リンク
IR情報ホームページ	Daigasグループ> IR情報> (https://www.daigasgroup.com/ir/)
<div>■ 統合報告書2025 (2025/7) NEW</div>	Daigasグループ> IR情報> 統合報告書
<div>■ 2025年度経営計画 (2025/3)</div>	Daigasグループ> IR情報> 経営ビジョン・経営計画> 単年度経営計画
<div>■ エネルギー トランジション2050 (2025/2)</div>	(資料) Daigasグループ> IR情報> 経営ビジョン・経営計画> カーボンニュートラルに向けた挑戦 (動画) 動画解説(概要版)
<div>■ ファクトブック2024 (2024/10)</div>	Daigasグループ> IR情報> ファクトブック
<div>■ 中期経営計画2026 (2024/3)</div>	Daigasグループ> IR情報> 経営ビジョン・経営計画> 中長期経営計画> 中期経営計画

